

# グループワークの発表

## Group Work

サマースクール参加者<sup>†</sup>  
 Summer school participants  
<sup>†</sup>日本認知科学会  
 JCSS  
 summer2018@jcss.gr.jp

### 概要

本OSに先立ち、合宿形式のサマースクールでグループワークを行っている。それぞれのグループにシニア研究者がチューターとしてつき、「良い理論を見極め、適切な仮説を生成すること」に関して議論した成果をワークショップにおいて、グループごとに発表する。

キーワード：JCSS, 認知科学 (cognitive science)

### 1. サマースクール

認知科学会のサマースクールは2011年から始まり、今年で第8回となりました。これまで、安西先生のレクチャーをはじめ、シニアの先生方の解説、若手研究者の発表とシニアの方々のディスカッション、学生・若手・中堅・シニアの方々の忌憚のない交流、などが実現されてきました。シニアの先生方の長い経験に培われた深い事象の理解や考え方がこのような交流を通じて伝えられることは、若手の方々の研究のスタートに極めて有用であり、それを組織的に行うことをサマースクールは目指しています。研究者は往々にして先端的な知識を得ることこそが、より発展した研究につながると考えます。しかし実際には、先端的な知識もまた基礎的な知識の延長であり、基礎的な事象の深い理解がなければ先端に行きつくことはできません。また、他分野の研究者との深い議論は、私達の頭をゆさぶり、一人ではローカルミニマムにはまっていた思考を新しい領域に引き出してくれます。実際には、このような議論や交流が、先端を切り開く新しい発想につながるのだと思います。

異分野についての学習、特に深い理解は心的な負担が大きいのには事実です。本サマースクールの参加者には、そのような壁を乗り越え、多くの方々の深い議論を通じて、新しい研究分野を開拓してほしい。認知科学会はそのようなチャレンジを積極的に支援します。

### 2. 良い理論を見極め、適切な仮説を生成すること

認知科学の研究には、実験や観察、調査がつきもので

すが、何の理論や仮説もなくデータを収集することはできません。それらは、必ず何らかの仮説（理論）に基づいて取得されます。しかし理論や仮説には「良い理論」と「あまりよくない理論」があります。良い理論（仮説）とはどのようなものか、まず物理学の理論をモデルに議論し、良い理論とはどのようなものかを理解してもらうことを目指します。

研究者は、実験によって事実を集め、自分の考えが正しいことを証明しようとします。あるいは事実を積み重ねることで帰納的に仮説を構築します。研究者が行っている活動は、事実に基づいた主張（結論）をすることです。しかし、ある事実が得られれば、自動的に主張（結論）が決まるわけではありません。たんに事実だけを提示しても、それだけでは議論として不十分です。そこには、かならず暗黙の仮定（論拠）が必要です。事実（根拠）と論拠が合わせて提示されることで、はじめて主張（結論）が受け入れられます。

研究者としてさらに一步踏み出すためには、自身が行っている議論のうち、なにが事実・論拠・主張であるかを明確に意識し、それらをうまくつなぐスキルが必要です。

このセッションでは2日間のサマースクールに参加し、考えたこと、感じたことをグループごとに発表し、参加者とともにディスカッションを行います。サマースクールおよびこのセッションを通じて、無自覚に受入れていた「もっともらしい仮説や説明」を批判的に咀嚼し、自身の研究で生成する仮説をより高いレベルのものにしてもらうことを期待しています。